

入学前特別講座Ⅱ「統計学基礎講座」報告書

「統計学基礎講座」は、「入学前特別講座Ⅰ（2月14日実施）」で数学診断テストを実施し、引き続き2月15日から17日までの3日間、午前9時から12時まで「入学前特別講座Ⅱ」を実施しました。

本講座の目的は、「①学習に取り組む意欲を喚起し、入学後の自律的な学習態度の高揚に繋げる。②入学後の学習が円滑に進められるよう、予習・復習の大切さを理解させる。③ピア・ラーニングを体験させ、入学後の学習センターの活用を促し、主体的な学びに繋げる。」の3点でした。講座では、12グループにそれぞれ1人のチューターが入りグループワークを行い、数学を得意とする生徒は互いに教え合いながら、チューターと同じ学習支援の体験をしました。

数学に対する苦手意識をもっている生徒も少なくない中で、振り返りの自己評価の結果には、学習意欲の高まりや予習・復習の大切さを実感する記述などが多くあり、日々学習意欲の高まりを感じる事が出来ました。2日目以降は開始30分以上も前から講座の復習や予習をしている生徒もあり、積極的に講座に参加している姿も見受けられました。欠席者には、Teamsで教材を配布し対面とオンラインのハイブリッドで対応し、結果として49人全員が講座に参加し、3日間の教材を解くことができました。一方、数学に対する苦手意識の強い生徒の学習方法の課題も見付き、入学後の指導法や学習支援の必要性を実感することもでき、担当者としても有意義な講座となりました。受講者の感想や14日の診断テストと最終日の達成度テストの比較も合わせて、目標は概ね達成されたと評価できました。

【講座の出席状況、意欲、目標の達成状況等】

（１）出席状況(16・17日は届出欠席)

	対面	遠隔	合計
2月14日	44	5	49(100%)
2月15日	41	8	49(100%)
2月16日	40	8	48(98%)
2月17日	42	6	48(98%)

（２）診断テストと達成度テストの平均点比較

診断テスト：14日、達成度テスト：17日	対象者	診断テ	達成度
①対面で受講し達成度テストを受けた人	41	44	77.1
②オンラインで受講しテストを受けた人	7	39.9	56.6
③1日目の復習と二日目の予習をした人	15	41.6	78
④予習復習をこれからやると回答した人	25	44	73
⑤予習復習をしない、または解答なしの人	8	45	69

※予習をした生徒の伸び率が高く、次は対面受講者が高くなっています。

（３）講座最終日の5段階自己評価(n=44)

今後の目標設定	3.67	4.52
高校までの復習ができて良かった	2.92	4.81
学習習慣	3.12	4.20
予習・復習の大切さがわかった		4.77
学ぶ意欲		4.66
学び合い		4.30
質問する力		4.12
読解力		4.48
集中して問題を解く		4.72
数学基礎力の向上		4.45
統計学基礎講座の満足度		4.60



グループで講座の振り返り

〔考察〕初日の講座開始前と統計学基礎講座最終日の自己評価を比較すると、「大学生活での目標を明確にすること」は3.67⇒4.52、「高校までの復習をすること」は2.92⇒4.81、「学習習慣を維持すること」は3.12⇒4.20と向上していました。「予習復習の大切さがわかった」は4.77、「集中して問題を解く」は4.72、「学ぶ意欲」は4.66、「満足度」は4.60でした。集中して問題を解くことができたという評価も4.72と高く、統計学基礎講座は実施期間が長かったが、講座参加者の8割以上は3日間の統計学基礎は適当な期間だったと回答し、約1割は3日間は長い、残りの約1割は4日間でもよいと回答していました。

◆学習内容（教材）について

- ・苦手な分野もあったけど就職などで必要になってくるのでいいと思う。
- ・言葉の意味が分かっていないと解けない問題だったので、読解力が上がって良かったです。
- ・文章やグラフを読み解く力が必要だと感じました。
- ・最初に練習問題を解いてから始めると、自分のできなかった問題がはっきり分かってからその後の学習に取り組めたので良かったと思う。文章の読解力や自力で考える力がついたから良いと思う。
- ・パワーポイントが手元で見れたのであとから復習も出来るし、言葉の説明もその場で見てわかるので良かったです。
- ・方程式の問題よりもこのような数学の知識は身につけたいと思いました。
- ・いい割合で問題が作られており、復習したりするには最適でした。難易度の高い問題もあり、解けた時にはスッキリし気分と達成感でいっぱいになる教材でした。
- ・年齢算や損益算など同じ問題でも様々なパターンで出題されていて、それに対応する力が身につく教材だと思う。
- ・すぐわかりやすく、予習や復習にも役立てることができました。
- ・分散や確率等、基礎や応用問題が多くあって、繰り返し解いていくうちに、やり方を見ずに解けるようになりました！
- ・年齢算の問題を解くのは初めてだったけど、解説動画や練習を繰り返して解けるようになったので良かったです。
- ・公務員試験や就職試験、大学生活での数学講座の流れを考えながら学ぶことが出来た教材が多く、解くことに対してより意欲的になれました。
- ・初めは、自分 1 人で問題を解くことが出来なかったけど、この 3 日間に集中して勉強していくことで、分散や標準偏差、損益算など解ける問題が少しずつ増えました。この 3 日間、統計学を学んで良かったなと思いました。
- ・2 日間は家で問題を解いたのですが、解説がとても分かりやすく勉強しやすかったです。
- ・説明も分かりやすく、躓いた問題も理解することが出来て良かった。

◆チューティングについて

- ・紙に書いて分かりやすく説明してくださったので理解できました。入学後、どのくらい統計学基礎や知識が必要か知ることができて良かったです！
- ・とてもわかりやすく教えてくれてやりやすかったし、歳が近いということもあり話しやすいし聞きやすかった。
- ・入学前に大学生と一緒に勉強できることが楽しかったわからないところもしっかりと教えてくれて良かったです。
- ・ノートにまとめて教えてくれたりして分かりやすかったです。
- ・好きな分野でもあったので、もう少し難しい問題とかもやってみたかったです。
- ・気軽に質問できてよかった。丁寧に解き方を教えてくれてとても良かったです。
- ・先生よりも気軽に質問しやすくてわからないことがなくなったので良かった。
- ・チューターの皆さんは何回質問しても優しく丁寧に教えたので、とても良かったです。
- ・わからない問題を質問して解決することができるのでよかった。名城大学入学が楽しみになった。
- ・入学後は積極的に MSLC を利用したいと思いました。1 問 1 問分かりやすく解説がされていて分かりやすかった・自分一人で解けなかった問題を質問して、先輩方にとても分かりやすく優しく教えてもらって、解けるようになりました。・チューターの方が優しくわかりやすく教えてくれるので分からないものも質問しやすかったです。
- ・問題も分かりやすく教えてくれたし、大学生活についても教えてもらったので良かった。
- ・分からないところを、とてもわかりやすく教えてくれて、この三日間ですごく成績を伸ばすことができました！



① 統計学基礎講座 2/15 の感想

- ・家で予習復習に取り組みたい。難しくついていくのに精一杯でした。
 - ・難しかったけど、チューターのおかげで楽しく学べた。知識が深まった。
 - ・わからない問題を今まで諦めてたけどチューターさんに教えてもらって理解することができ、数学の楽しさを知ったのでよかった。
- 高校の授業と違ってチューターもいるのでわかりやすかった。



- ・数学は得意じゃ無いけど、チューターの前輩が教えながらやってくれたので出来た
- ・数学とか計算は少し難しかったけど、グループの人と話し合いながらやったり、学生の方に教えてもらったりしながらだったので楽しかった。解ける問題が増えたので良かった。予習が必要なことが分かりました。
- ・自分の苦手な問題を見つけることが出来た。チューターが 1 対 1 で教えてくれるので、とても分かりやすかった。
- ・内容が難しく理解するのが大変でした。ですが、前よりかはできることが増えたので良かったです。復習や予習を頑張ってみようと思いました。

② 統計学基礎講座 2/16 の感想

- ・わからない問題が解けるようになった。今日は昨日よりついていけた気がします。
- ・たくさん計算して答えが出た時にとても嬉しかったです…家でも予習、復習を継続できるように頑張ります。
- ・昨日帰ってから予習をしたので、今回の内容がよく分かったと思う。年齢算も苦手だったけれど、朝の復習やチューターの方々に教えてもらい、自分でなにが分からなかったのか、どのようにすれば解けるのか理解することができた。
- ・共分散や四分位数、相関係数について学ぶことが出来て良かった。また、自分の課題が年齢算であることに気付くことが出来た。チューターの方がわかりやすく教えてくれて楽しかった。
- ・今日の項目は少し難しかったけど、できた時の達成感はすごかった。
- ・初日にできなかった問題ができて、達成感が味わえたのでよかった。
- ・昨日出来なかった、共分散や年齢算が解けるようになりました。
- ・今日やる講義の予習をしていたから、授業をスムーズに受けることができたので、予習復習を続けたいと思いました。
- ・昨日よりもできることが増えたので良かったです。復習予習頑張ろうと思いました。
- ・少し難易度が上がったが、置いていかれないように予習復習をしっかりしていきたい。
- ・昨日より難しかったけど、言葉の意味を理解して解くことでより解くことが出来ました。
- ・復習することが大切だと思うので今日は家に帰って復習や予習を行いたいです。
- ・講義が始まる前に復習をしたのである程度わかった。次回は総テストがあるので復習してくる。



③ 統計学基礎講座 2/17 の感想

- ・テスト①は自分が思っていたよりも解けたと思います。②は応用の部分ができませんでした。でもこの講座で習った基礎はできたので良かったです。みんなの前で感想を言うのは緊張しましたがいい経験になりました。
- ・テスト前の自習の時間に、苦手だった年齢算をチューターに教えてもらい、克服することが出来たのでよかった。
- ・今まで勉強してきた内容のテストをして、最初にやった診断テストの時より解けたと思っています。でも、2 回目の応用問題はまだまだ理解が足りなかったなと思いました。この 3 日間で教わった年齢算や損益算、分散、標準偏差の内容をまた復習して 4 月の初めのテストに向けて勉強したいと思います。学習に対する意欲がとても高まった。
- ・テストの内容は難しかったが、自分で勉強する力や考える力が講座を受ける前よりはついたと思う。
- ・この三日間で学んだことの集大成としてテストを行なって、初日に行ったテストよりも、自分の点数が格段に上がり、最初の自分よりも成長していることがわかって、嬉しかった。チューターの人たちの教えがうまくて数学が楽しかった。
- ・4 日間の総まとめで、1 日目分からなかったもの、できなかったものを今日解いてみてできるようになっていた。それが今回の講義の 1 番の収穫でした。また、それに加えて勉強に対する意欲が増すのを感じた。
- ・先生やチューターの説明や解説がとても分かりやすく、分からなかった所が意味を理解して解けることができた。

◆ チューターの振り返り

1・教材について

- ・短時間で行わなければならないため、どうしても内容が多く感じてしまうが、自主学習をすることを前提に考えればちょうどいい問題数だと思った。人によっては基礎的な知識が乏しい人もいたため、レベルも優しめで良かったと思う。ある程度できる人でも初めて目にするような問題が多かったと思うので、有意義な内容であったと思う。
- ・内容が多く、チューティングの時間が足りないと感じました。しかし、予習や復習といった自己学習を行う際に、利用出来るといった点は良いと感じました。
- ・演習問題が多かったので、基礎問題と応用問題の両方をアプローチできたと思った。
- ・問題数が多いと感じた。しかし、家での自宅学習に活用している高校生もいた。
- ・取り扱う分野が多く、十分なチューティングが行えなかった。

2. チューティングの感想

- ・複数人対 1 人という形でのチューティングは、あまりしたことがなく、学生の能力に差があったりもして、難しかった。質問をしてくれるチューターに関してはやりやすさを感じるが、聞くことを恐れ、こちら側からアプローチをかけなければ支援できない場合はかなりしんどいと感じた。ただ、話しかけたら返事や質問をしてくれるため、そこに関しては良かった。
- ・グループによって学力差があり、グループに差が生まれていたのではないかと感じた。また、1 人で 3～4 人を担当するというのは難しかったが、とてもいい経験になったと思った。生徒自身から質問してくる事がほとんど無かった(生徒自身がどこを理解していないのかを理解していない)から、自分から相手の考えを引き出すことの大切さと難しさを感じた。
- ・積極的に質問してくれる学生と、質問したりしないと話してくれない学生もいた。積極的に声かけを行ったり、合っている部分で褒めるような声かけをすることで、生徒も質問してくれるようになったため、声かけの大切さを感じた。
- ・何人かはチューティングをしても難しい子がいたので、伝え方の工夫がもっと必要だと自分自身感じました。
- ・人と一緒に問題を解くことが苦手な学生もいたので、1 人だけ個別にさせてあげるか、どうか戸惑うこともあった。
- ・高校生と適切な距離を保ちながら、高校生が自主的に学んだり、ピアラーニングしたりなどをチューティングを通して促すことが重要だと思いました。また、相手に応じたベストなチューティングをすることは難しいが、それができるように工夫し、レベルの高いチューティングを目指すべきだと改めて感じました。
- ・上手な時間の使い方ができず、ファシリテーションスキルが全然足りてないと感じた。今後のためにも、チューティングスキルのみならず、そのような部分も高めていく必要がある。
- ・1 人で 4 人をみることはとても難しく感じた。学力の差や性格などによって対応を少しずつ変えていくのも難しく苦戦したところもあった。

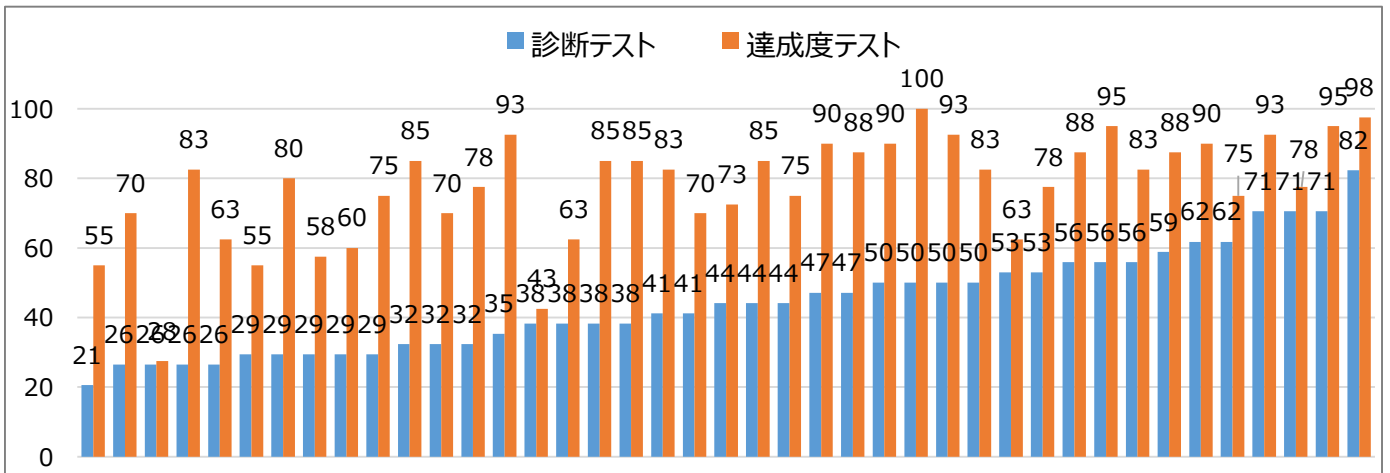


3. 高校生の意欲や態度等で気になる点

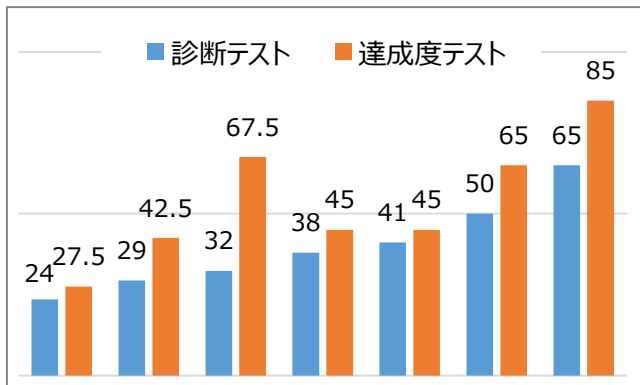
- ・意外と分散や標準偏差、相関係数といった高校で学んだ知識を忘れていた生徒が多いと感じました。また、計算ミスといったケアレスミスをしている生徒が多いと感じました。
- ・教えられる範囲に限度があった。人と一緒に問題を解くことが苦手な学生もいたので、1 人だけ個別にさせてあげるか、どうか戸惑うこともあった。タメ口が当たり前のような子がいて少し気になりました。
- ・質問した時に積極的に答えてくれる学生と答えない学生の差が結構あった。
また早く解き終わって、できている学生に隣の子に教えてほしいというと、積極的に教えて学び合うことが出来ていた。
- ・意欲的に質問してくれる学生と、わからない問題があると黙って固まっている学生がいて、注意深く見ることの必要性を感じた。また、高校で学習していない SPI 問題に関しては、理解度に差がみられた。
- ・タメ口が当たり前のような子がいて少し気になりましたが、良く言えば社交的、フレンドリーであり、接しやすかったです。
- ・担当したグループの人は、みんな積極的に勉強するという意欲が見えた。

入学前特別講座「統計学基礎」報告書 ②

(1) 「統計学基礎講座」の学習前後の正解率比較



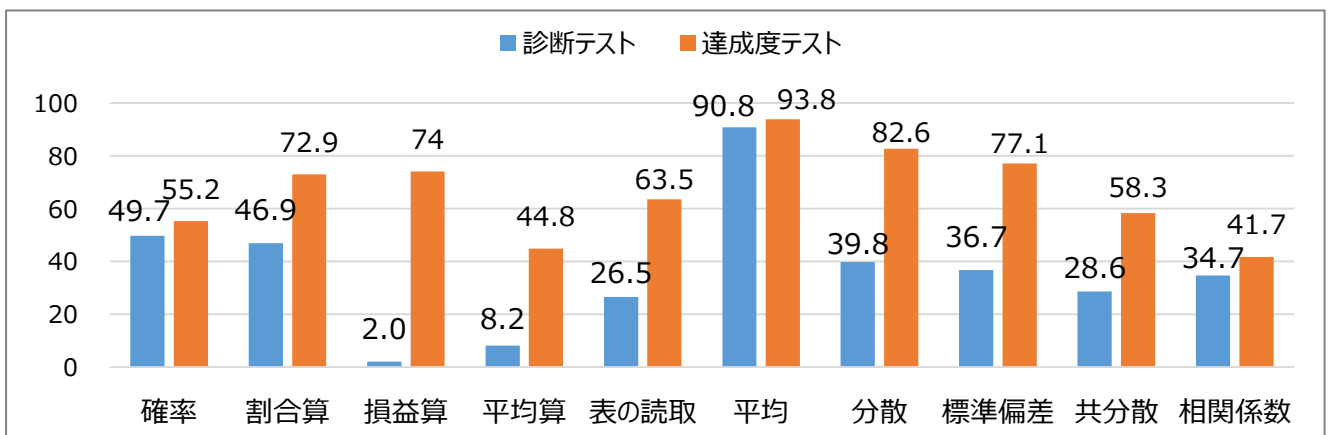
(2) オンライン受講者の講座前後の正答率比較



[考察]

対面受講者でも、1 日でも欠席した生徒の理解度は低く、達成度が低かった。また、講座を対面で受講した生徒の中で、質問ができない、または解答を見せない生徒は伸び率が低かった。オンライン参加でも動画を視聴したという生徒は達成率が高かった。その結果、達成率の結果は、得意・不得意の差はあるもののそれ以上に、講座の学習内容に主体的に向き合ったかどうかの結果だといえる。振り返りからそれを生徒自身が実感できていたと推察できる。

(3) 学習内容（単元）別講座前後の正答率比較



[考察]いずれも診断テストより達成度テストの正答率は上がったが、後半は計算ミスが多く正答率は予想より低かった。割合、損益、小学校の学習内容であったが、文章読解や立式が難しい生徒もいた。確率は高校 1 年レベルの内容で苦手な生徒が多かった。表の読み取りは、計算は優しいが、表の理解が難しかったようである。後半の共分散は符号ミスや計算ミスが目立った。

報告 2022 年 2 月 22 日 リベラルアーツ機構 高安美智子

入学前特別講座Ⅱ「英語ワークショップ」報告書

報告者：笠村淳子・タンエンハイ・渡慶次正則

2022年2月15日(13:00～16:00)・16日(13:00～16:00)の二日間にわたり、令和3年度入学前特別講座英語ワークショップを対面のみで開催した。以下はその報告である。

1. 目的：英語ワークショップは以下の3つの目的をもって実行された。

- (1) 新入生の必修科目であるベーシック・イングリッシュおよびイングリッシュ・コミュニケーションに備え、実際に英語だけを使用する活動を提供する。
- (2) 在学生である言語学習センター（LLC）チューターが中心にワークショップを実践することで、先輩後輩の関係を構築し、ピア・ラーニングの経験を提供する。
- (3) 活動内容を本学の情報を得る機会とすることで、入学前の知識と心構えを支援する。

2. 計画と参加者：在学生を起用することで、先輩と後輩とのつながりを確保し、入学後の支援体制を強化することを意図した。

(1)指導教員：タンエンハイ准教授・笠村淳子准教授・渡慶次正則教授（LLC 長）

(2)学生チューター：LLC チューター5 名

(3)計画および実践

(ア) 活動内容準備

(イ) 前回と異なり、活動はすべて教員が準備し、チューターが実践できるように彼らにトレーニングおよびリハーサルを実施した。

(ウ) 昨年度の特別講座英語ワークショップで実際に応用した活動に変化を加え、さらに英語コミュニケーションを活性化させる活動に修正した。

(エ) 目的1にあるように、活動はすべて英語で行うため、今回の活動に運用するチューターは事前にそれを可能にできる人材を厳選した。

3. 結果

高校生参加人数：

1 日目（2/15）：41 名

2 日目（2/16）：39 名

* すべて対面で参加

写真
講座の様子



アンケート結果：

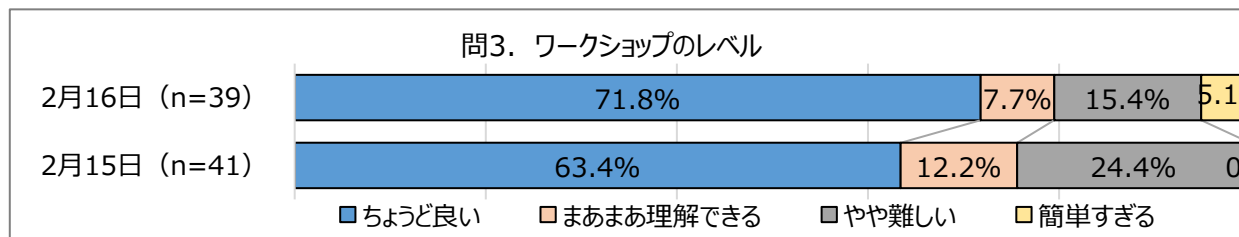
問1. ワークショップの時間の長さについて、両日とも半数以上の参加者が「ちょうどよい」と回答し、12～15%の参加者は「短すぎる」あるいは「ちょっと短い」と回答した。このことから、ほとんどの参加者は、活動に楽しく参加できたことが伺える。一方、数人の参加者は「ちょっと長い」つまり何らかのネガティブな気持ちを感じた可能性がある。

	短すぎると感じた	ちょっと短いと感じた	ちょうどよい	ちょっと長いと感じた
2月15日 (n=41)	4人 (9.8%)	1人 (2.4%)	33人 (80.5%)	3人 (7.3%)
2月16日 (n=39)	4人 (10.3%)	2人 (5.1%)	30人 (76.9%)	3人 (7.7%)

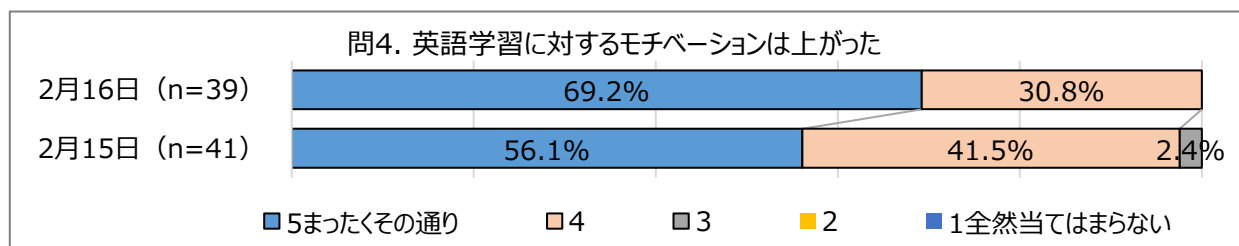
問2. ワークショップの内容について、両日ともほぼ全員が「とても満足」あるいは「やや満足」と回答し、「どちらとも言えない」の回答者 1 名を除き、全体的に高評価な結果となった。

	とても満足	やや満足	どちらとも言えない
2 月 15 日 (n=41)	36 人 (87.8%)	4 人 (9.8%)	1 人 (2.4%)
2 月 16 日 (n=39)	33 人 (84.6%)	6 人 (15.4%)	0

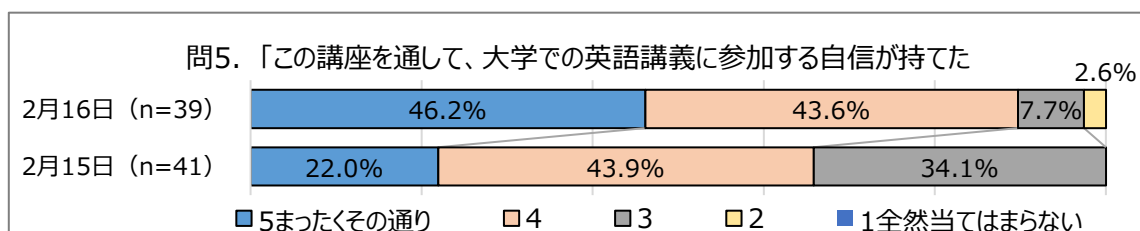
問3. ワークショップのレベルについては、1 日目よりも 2 日目に「ちょうど良い」「まあまあ理解できる」が増えており、「やや難しい」が減っているが、同時に「簡単すぎる」と感じた参加者がいた。2 日目は 1 日目と同じ活動をいくつか取り入れていたことも関係している可能性も考えられるが、ここで参加者の間には英語のレベルの差がみられる。



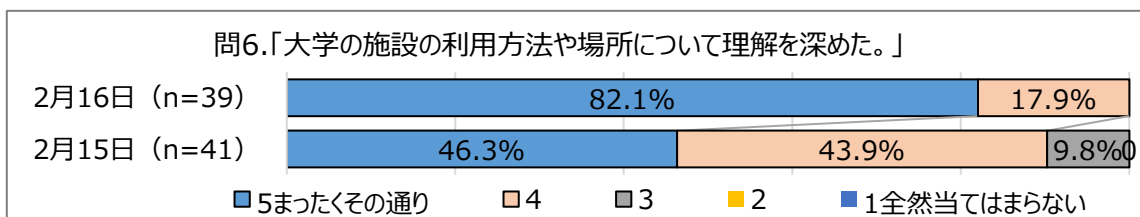
問 4. 「受講前と受講後のわたしの英語学習に対するモチベーションは上がった。」に関しては、ほとんどの参加者が英語学習に対してモチベーションが上がったことをしめす「5」と「4」を回答している。



問 5. 「この講座を通して、大学での英語講義に参加する自信が持てた。」については、2 日目に英語講義参加への自信を増した回答が増えた結果となった。こちらの回答についての否定的な回答は無かったが、2 日目に「2」を回答している学生がおり、活動の中で何かしら難しさを感じるがあった可能性も考えられる。



問 6. 「この講座に参加して、大学の施設の利用方法や場所について理解を深めた。」この質問は、活動目的 3 についての効果を図るための質問であるが、大学内の施設について知るゲームを用いた 2 日目は全員が「4」と「5」を回答している。英語であっても、参加者にとって必要な情報提供は興味深い活動であったことがわかる。



問 7 の質問は、こちらの目的達成に関係しないため、こちらでは割愛することとした。

問 8. 「LLC チューターとの交流を通して、大学生活に対する自身の見方に影響がありましたか。」という問いに関しては、記述式を設定した。全体的に、楽しく活動に参加し、英語を学ぶことは実は楽しいという実感を得られたコメントが多数（34 件）あった。また、学習センターが設置されていることで、学業で困ったことがあれば利用したい（15 件）や英語を使いこなすチューターたちを見て感動した（8 件）ことおよび他の学生と学び合えたことがよかった（6 件）との回答があった。その他に英語で会話する価値を見出したり、入学後の不安が軽減したとのコメントがあった。

問 9. 「自身の振り返りとして、参加してよかった（あるいは学びになった）と思うことは何ですか。」のコメントには、コミュニケーションをとろうと積極的に努力することの大切さに気づいたとのコメントが多くあった。また、一緒に入学する他の学生と交流できたことや実際に英語で会話する機会が持てたことが学びとなったとのコメントがあった。

4. 考察

ここでは主に、ワークショップの 3 つの目的の達成度について考察する。

目的(1)に関しては、実践者となったチューターたちに自己評価として「どのくらい日本語を話しましたか」という問いの回答を求めた。1 名のチューターは、完全に英語のみで対応したと回答し、残り 4 名は日本語を全体の 20%ほど話したと回答した。その理由として、参加者が英語の理解に困っていると感じた場合、日本語の説明を加えることがあったとのことであった。「すべて英語のみで活動を進める」ことが目的だったことから、こちらの目的は 100%達成とはいいがたいが、80%は達成できたのではないだろうか。今後は、すべて英語で対応するためのトレーニングとリハーサルが必須であると感じる。今回はそれらの時間確保が難しい状態であった。

目的(2)の先輩後輩の関係構築およびピア・ラーニングの経験については、問 8 のコメント結果からわかるように、多くの参加者がチューターに親しみを覚えると同時に、ロールモデル的な役割を果たしているコメントも見られた。ピア・ラーニングについては、同級生との学び合いの交流を経験し、もっと頑張りたい気持ちが増したことがわかる。こちらの目的もほぼ果たしている。

目的(3)の大学の施設を知ること、入学前の知識と自信を増すことについては、アンケート回答結果からもわかるように、ほぼ全員が活動で提示された施設を知ることができ、そのことで入学前の不安が軽減したようなコメントも見られる。それらのことから、こちらの目標もほぼ達成できていると考える。今回のワークショップは、全体的に参加者の英語に対するモチベーション向上と大学の施設、特に学業における支援を受ける場所について情報を提供することで、入学後自信を持って英語学習に臨める心構えを備えることに重点をおいて実施した。その点からは、成功だったと言えるのではないだろうか。

5. 今後の課題

今回のワークショップは、英語に対するモチベーションや学内の学生（学習）支援の環境を知ること、参加者が入学後、安心して意欲的に語学学習に取り組むきっかけを与えることが主な目的であった。数学のように、事前事後の確認ができるような講座にするためには、一つの単元、例えば「関係代名詞」を取り上げて、それについて英語で講座を開催するなど、言語学的な側面に焦点を当てた英語学習体験を組み入れて活動を準備することで、入学後、参加者がさらに自信を持って実際の講義に臨むことができると考える。それを踏まえたうえで、今回の「会話」中心の活動を導入し、参加者が英語を学ぶ意義について実体験できるワークショップの実践を工夫したい。さらに長期的な支援のために、具体的なフォローアップを含んだ e-ラーニングの活用も考慮する必要があるだろう。

参加者のコメント（抜粋）

- 今までではあまり英語に興味を持たなかったが、LLC で色々教材があったり、英語で名桜のことについてより知れたのでよかったです！
- チューターと会話していて、とても話やすかったので、入学後も勉強のことを教わりたいと思いました。
- すべて英語で会話していてカッコよかったです。日本にいるのに色んな人と交流できたり、いろんな言語をきくことができるのがいいと思いました。
- 勉強とか追いつけるか不安があったけど、LLC などがあるおかげで頑張れると思いました。
- 大学でのイメージがついたし、英語の学習についても意欲が増した。
- 英語は難しいものだと思っていたけど、今回の交流を通して楽しいものだと思うことができた。
- 英語は苦手意識があったけど、チューターの人達と英語で会話したりすることで、とても楽しめました。
- 学生同士で助け合うのがいいなと感じましたし、気軽に分からない所とかを聞けるのはとても気が楽になりました。
- 参加していなかったら、英語を話すことにとても抵抗があったと思います。2 日間参加して、英語を通して人と話すことが楽しいなと思えました。
- 英語では自分から積極的に行動して英語を喋ることの大切さを学んだ
- 知らないことを知ることができた上に、自分で少し文を考えることができた。続けることで大いに実力向上に繋がると思った。
- 昨日よりうまくコミュニケーションがとれたと思います。積極的に英語を話せるのでこういう機会がもっとあればいいなと思いました。
- 英語で会話することで、みんなと少しずつ打ち解け合うことができたと思います。英語は少し苦手だけど、LLC を積極的に活用して英検などに挑戦していきたいです。

以上



2021 年度入学前特別講座Ⅱ（ライティング講座）報告書

1. ライティング講座の概要

ライティング講座の概要	
日時	2022 年 2 月 17 日（木） 13：00～15：00
目的	① 高等学校で取り組んできた小論文と、大学で求められるレポート・論文との違いについて理解する。 ② ライティングスキルを磨く意義について理解する。 ③ ライティングセンターでの支援内容について理解する。
内容	① 小論文・レポート・論文の違いについて ② レポート・論文作成の基本ルールについて ③ 剽窃・盗用・盗作について ④ ライティングスキルを磨く意義について ⑤ ライティングセンターの支援体制について

2. ライティング講座の成果と課題

ライティング講座の成果としては、入学後の必修科目である「アカデミックライティングⅠ」の内容の導入を提供出来た点にある。特に、高等学校で取り組んできた小論文と、大学で求められるレポート・論文との違いを中心に講座を実施した。その他、レポート・論文の基本ルールや剽窃、さらには、ライティングスキルを大学で磨く意義について説明を行った。今年度より、理解度テストを〇×方式で実施し、結果は以下の通りである。

<理解度テストの結果 〇×で回答>

	質問項目	正解率
1.	レポートは、敬体（です・ます調）で書くことが望ましい。	97.7%
2.	レポートでは、こそあど言葉を極力避ける必要がある。	100%
3.	レポートでは、読み手の関心をひくため、体言止めを使用することが望ましい。	97.7%
4.	教員が書いた本や論文をレポートで用いる場合には、失礼のないように敬称・敬語を用いる。	93.2%
5.	レポート・論文では、剽窃・盗用を絶対に行ってはいけない。	100%
6.	ライティングスキルとコミュニケーション能力は、関係がない。	100%
7.	これまでの時代と比較して、ライティング能力が求められる時代になった。	100%

【考察】

レポート・論文では敬体を用いないこと、体言止めをしないこと、敬称を用いないことを資料を用いて説明したが、数名の生徒は理解していない点が浮き彫りになった。一方で、多くの生徒は 7 問すべてに正解した。

今年度より、センター長がライティングセンターやチュータリングの説明を行うのではなく、チューター学生に役割を担ってもらった。受講生にとっても非常にわかりやすく、工夫をこらしたプレゼンテーションであり、受講生からも好評であった。

以下、ライティング講座に対する受講者の感想である。

<受講者の感想>

- ・大学に入ってライティングの技能を頑張っていきたいと思いました。
- ・今まで胸を張れるほど努力してきてないので、もっと頑張ろうと思いました。
- ・大学でのレポートの書き方などについて少しだけわかった気がする。自分はレポートとか文章を書くのが苦手なのでライティングセンターを利用したいと思った。
- ・自分自身、文章化する事が苦手なので基本的なルール等を知れてよかったです。
- ・小論文とレポートの違いを理解することができ、今後の大学生活で活かしていきたいと思いました。・あまり覚えていない。
- ・ライティングは努力すればするほど報われる事がわかりました。
- ・レポートの書き方や小論文との違いなど、詳しく知ることができてよかった
- ・これから必要になってくるライティング能力がどれだけ大切か理解することができた。・レポートを書いて課題提出するためだけでなく、社会にでていくなかでどんな場面でも必要になってくることがわかった。"
- ・文章はしっかり学べば、書けるようになって分かったので、ライティングセンターなどを活用していきたい。
- ・これから大学生になって書くレポートや論文のイメージができた。
- ・ライティングの大切さを知った。努力に勝るものなし。
- ・努力して恥ずかしい思いをしないようになりたい
- ・自分自身でレポートを書き上げるのはとても難しいので、ライティングセンターに通って少しでもいいレポートをかけるようになりたいです。
- ・大学のレポートや社会にでてでもライティングスキルは必要になるので身につけていきたいと思った。小論文は苦手なタイプだけどレポートなどはしっかり力をつけていきたい。
- ・大学生活が始まるとレポートや論文を書く機会が増えてきます。その時に書き方がわからないままだと単位を落としてしまったりいい文が書けないことになります。そうならない為にもライティングセンターを活用するなどして、自分のライティングの力をつけていきたいです。
- ・印象に残ったことは、コミュニケーションスキルとは、自分から話しかけるしゃべりがうまくなるのではなく、人が話しかけたいくなるようなスキルということです。社会に出たらとても重要になってくるスキルなので、大学生活を通してしっかり身につけていきたいと思いました。
- ・高校で習った小論文と今からやるレポートの違いを知ることができた。入学後はライティングセンターを積極的に活用して、自分の文章力を高めていきたい。
- ・書くことに関して自信がないのでライティングセンターなども利用しながら自信をつけたい。
- ・小論文とレポートの違いを知ることができたので良かったです。自分は文章を書くのが苦手なので困った時とかは、ライティングセンターを活用したいと思います。
- ・プレゼンが面白かった！
- ・ライティングは大学で大事なことだと改めて知った"
- ・レポートや論文の書き方について、あまり知らなかったので講座を通して書く時のルールなどを知れて良かった。自分のためになったと思う。
- ・正直自分自身ライティングには自信はないけど、ライティング努力すれば報われると聞いたので、これから入学後も頑張っていきたいと思いました。

- ・文章を書く力はどんな仕事でも求められると思う。大学 4 年間でしっかり身につけたい。
- ・みんなここからの努力次第で上に行けると聞いてやりがいを感じた。
- ・私は文を書くのに自信がありませんが、この講座を受けて努力すればするほど上手になっていくんだと知りました。
- ・自分は文章を書くことが苦手だけど、大学入学後にライティングセンターで自分のライティング能力を伸ばしたいと思いました。
- ・大学に入って書くレポートと小論文の違いについて知ることが出来た。また、論文では常体を使用することや敬称、敬語を使用しないなど論文の基礎的な知識を知ることが出来て良かった。
- ・小論文とレポート・論文の違いを知ることができ、レポートや論文の難しさを理解することができました。
- ・文を書くことが苦手なため、積極的に利用していきたいと思った。ライティングセンターの役割も理解することができたのでよかった。
- ・今まで書いたことのないレポートに対して、大学生活が不安でしたが、基本ルールをしっかりと教えていただき、ライティングはコミュニケーションにつながる、努力した分だけ上手になると知ることができたので、大学生活の為にも社会人生活の為にも今後も習得していきたいと思いました。
- ・小論文とレポート、論文の違いを学びました。大学では必ず出されるレポートや論文ですが、行ってはいけないこととかルールを学んだので、忘れずに課題に取り組んでいきたいです。
- ・レポートの書き方は全然わからなかったので今回書き方や引用の仕方を知ることができて、良かったです。語彙力がないので入学後、本を読んだり、チューターの方々に教えてもらいながらライティング力を高めていきたいと思いました。
- ・レポートや論文を書くことは、色々な決まりもありとても難しいのかなと思ったけれど、大学入学後に、自分でライティングセンターを積極的に利用するなど、書く能力を上げるために、自分から動いて、他者が納得できるようなレポートを書こうと決めた。
- ・高校よりも大学で求められるライティング力は格段と上がっていることが分かった。今日学んだ内容を理解して、入学後は MWC 等を活用してライティング力のスキルアップに取り組みたい。
- ・ライティング＝コミュニケーションスキルだという発想は今までなかったので大変勉強になったし、私たちが社会人になった時にますます書くことが必要になってくると聞いて、大学入学後は、積極的にライティングセンターを利用して自分のスキルを磨きたいと思った。



写真 1 当日の講座の様子



写真 2 MWC チューターのプレゼンテーションの様子

報告：ライティングセンター長 大峰 光博